

五言

一、
早知...
...

即...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

入の邊より山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ
山を越えて山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ

丁卯年七月

此の山は山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ
山を越えて山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ

丁卯年七月

此の山は山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ
山を越えて山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ

丁卯年七月

丁卯年七月

此の山は山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ
山を越えて山に相見えし方より山を越えて行くと云ふ

丁卯年七月

計中後方より来るものあり

日録

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

一 多分ある

山何如

和日

卷之四

少頃乃知

一 早稲後五朔 宗示成り 諸地を
二 田及作 宗示成り 諸地を
三 書面 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

一 題 宗示成り 諸地を
二 宗示成り 諸地を
三 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

一 宗示成り 諸地を
二 宗示成り 諸地を
三 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

一 宗示成り 諸地を
二 宗示成り 諸地を
三 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

一 宗示成り 諸地を
二 宗示成り 諸地を
三 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

一 宗示成り 諸地を
二 宗示成り 諸地を
三 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

一 宗示成り 諸地を
二 宗示成り 諸地を
三 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

一 宗示成り 諸地を
二 宗示成り 諸地を
三 宗示成り 諸地を
四 宗示成り 諸地を

[illegible]

古
仁者
古
聖賢

一、市井痛之、以悔之、保之、至名在天下、而後始能自名。

一國之民皆曰此爲我之國也

一、此等文字，在古人
 於史冊中，亦不

鄭康三日卒

車中病
自元氏係一日以重見之於山後院家

後金を爲め同族の方々を苦しめし
一、英振道安の司所より書寄るるに、海子より同族の方

上以孝
必為之

於其痛也。多言之。以爲報。疏下。亦計其必是。又守志者。而之乎。之乎。云。何中。而當。當。如。市。

丁巳之冬
 為方孫述年
 以與柳陽石
 經年以電刊紙

能者居之，以爲天下之良
德，可也。古語云：『

五月廿

於吳孫以所陽之

敬告諸君

[illegible]

三ノ

法水寺

中尾山

山

山

山

山

山

山

一

歌集の出来は、
山

山

一

山

一

山

一

山

山

山

一 居たはてしなくあはれなる人
ちかちか下し
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

妙法靜幽院殿雅王嬰女

一 あはれなる人
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

一 おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき
おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おまへは心ゆくやうにふたふた二枚おき

おききしものゝはなはたしきことなり

中土より

中土より

一、ちりちりしきものゝはなはたしきことなり

ちりちりしきものゝはなはたしきことなり

中土より

中土より

中土よりしきものゝはなはたしきことなり

中土より

中土より

中土より

中土より

中土より

中土より

中土より

中土より

中土より

中土より

我々此處より成はるる月夜に
てふ事ありて
明く下るる月夜に
明く下るる月夜に
明く下るる月夜に

一 幸ひ多し
二 幸ひ多し
三 幸ひ多し
四 幸ひ多し
五 幸ひ多し
六 幸ひ多し
七 幸ひ多し
八 幸ひ多し
九 幸ひ多し
十 幸ひ多し

七日
一 幸ひ多し
二 幸ひ多し
三 幸ひ多し
四 幸ひ多し
五 幸ひ多し
六 幸ひ多し
七 幸ひ多し
八 幸ひ多し
九 幸ひ多し
十 幸ひ多し

面

ちりあをるは板なやーりあをるは

ちりあをるは板なやーりあをるは

ちりあをるは板なやーりあをるは

ちりあをるは板なやーりあをるは

ちりあをるは板なやーりあをるは

面

ちりあをるは板なやーりあをるは

ちりあをるは板なやーりあをるは

ちりあをるは板なやーりあをるは

面

ちりあをるは板なやーりあをるは

ちりあをるは板なやーりあをるは

三ノ宮

一、**書寫之例**（右）

一、字而方口為

佛西經曰去人心中之三人方休矣

白井の古史の中心に在るもの

少多後方學有見去處古人以爲常事是

一、日本列島、太平洋の南緯、年々久三層

下等節者一之りるを全也

一、玄之又玄，玄之又玄，玄之又玄，玄之又玄。

表千古之
靜幽心
初任事

附張付作、去部、入

[illegible]

自人之有情

一、
 志、
 乃、
 中、
 國、
 之、
 事、
 也、
 刻、
 於、
 心、
 中、
 不、
 可、
 磨、
 滅、
 也、
 幸、
 勿、
 忘、
 也、

清江中居生界外力不字林

年辰并於文定坊之西新出之石

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

(Vertical calligraphy)

此乃一書之序也

長生中佐良子
 和方乃教良子
 西衛臣

不才の公衆前には、
大いなる進歩を遂げ、

[illegible]

臨江府志卷之四

[illegible]

斗いあふれりし

結ぶまじ

一 諸君及御方々御座りて此の世に生れしは、
御方々御座りて此の世に生れしは、

一 人臣の位に在りて、
人臣の位に在りて、

一 人臣の位に在りて、
人臣の位に在りて、

一 人臣の位に在りて、
人臣の位に在りて、

一 人臣の位に在りて、
人臣の位に在りて、

一 人臣の位に在りて、
人臣の位に在りて、

一 人臣の位に在りて、
人臣の位に在りて、

一 人臣の位に在りて、
人臣の位に在りて、

